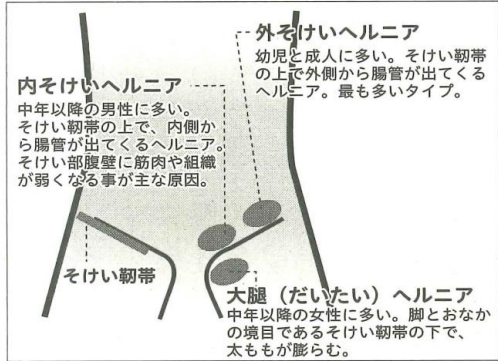


「脱腸」最適な治療を



製鉄記念室蘭病院

ヘルニア外来を開設

室蘭市知利別町の製鉄記念室蘭病院(前田征洋病院長)は、「そけいヘルニア」の治療を目的とした専門外来「ヘルニア外来」を開設した。外科・消化器外科のサシム・パウデル医長(日本ヘルニア学会評議員)は「それぞれの症状や全身状態などに応じた最適な治療法について、患者さんとともに選択します」とし、「症状に気付いたら、専門医に相談を」と話している。診療日は毎週火曜日午後。(松岡秀宣)

一般的に「脱腸」とも呼ばれるそけいヘルニアは、おなかの中にある腹膜が、そけい部太ももの付け根の部分の弱くなった腹壁部分から、袋状に外部に飛び出してくる病气。加齢によって筋膜が弱くなることで発症するケースが多く、「外そけいヘルニア」「内そけいヘルニア」「大腿ヘルニア」に大別される。

そけい部の膨らんだ部分(ヘルニア嚢)は、初期の段階では違和感がある程度で、指で押すと簡単に引っ込むが「自然治癒は望めない」(サシム医長)。さらに進むと、不快感や痛みのほか、腫れが急に硬くなったり、血流障害を起して腸が腐るなどの状態となり「緊急手術をしなければ、命に関わるケースもある」(同)という。

そけいヘルニアは手術が唯一の治療法。ヘルニアをおなかに戻した上で、メッシュ状の人工被覆材で閉鎖する。患者の身体の状態や症状などによって、へそやへそ周辺の数カ所を小さく切開して行う「腹腔鏡手術」か「そけい部を切開する手術」で行う。

ヘルニア外来は7月2日から診療を開始。サシム医長と「西胆振で唯一」(同病院)となるヘルニア領域での内視鏡外科学会技術認定医の武藤潤・呼吸器外科主任医長が担当する。

サシム医長は「患者さんの状況に応じて、ベストの治療を選択する。早期の対応は(入院なども)短く済むことが多く、気になる症状があった場合は、ぜひ受診を」と話す。



毎週火曜日午後の「ヘルニア外来」を担当するサシム医長。「『そけいヘルニア』の症状に気付いたら、専門医に相談を」などと話す

診療日は毎週火曜日の午後2時から午後4時まで(完全予約制)。同病院は「まずは予約をお願いしたい」と呼び掛けている。予約や問い合わせなどは同病院、電話0143・44局4650番へ。